

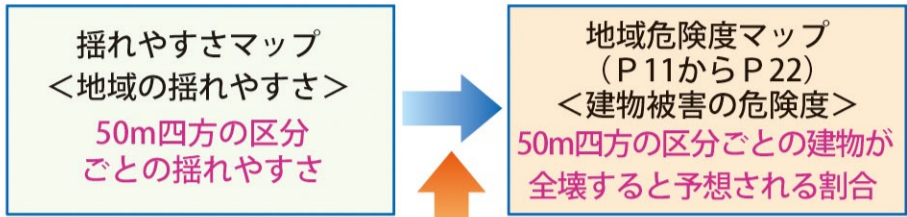
地域の危険度マップ

「地域の危険度マップ」は、地震の揺れによる建物被害発生危険度分布を相対的に示したもので、地震による「揺れ」(揺れやすさマップを参考にしてください)によって建物が全壊すると予想される「割合」を危険度として表示しています。区域内の揺れが強い地域や同一地区(小字等)に耐震性の低い古い木造住宅が多いと危険度が高くなります。

建物被害発生危険度分布を把握

大字ごとに分布する建物の建築年代や構造を集計し、その割合と市内を50m四方に区分した範囲の揺れやすさをもとに全壊*すると予想される建物の割合を表示したものです。危険度の数値が大きくなるほど地域で被害を受ける建物の割合が大きくなります。

地域危険度マップは、地震防災マップ作成技術資料(内閣府、平成17年3月)を参考に、次の手順で作成しています。



地域ごとに建築年代や構造を考慮した建物分布

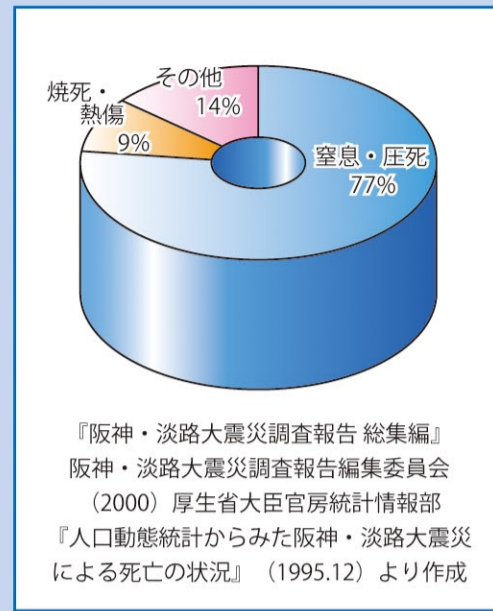
*:住居が居住のための基本機能を喪失したもの
:住居の全体若しくは一部の階が全て倒壊している場合

恐ろしい家屋の倒壊

地震による死亡の原因で最も多いのは、家屋の倒壊や家具の転倒による「窒息・圧死」であり、阪神・淡路大震災での死者の約80%を占めています。



木造建物被害例
(平成7年 阪神・淡路大震災)



『阪神・淡路大震災調査報告 総集編』
阪神・淡路大震災調査報告編集委員会
(2000) 厚生省大臣官房統計情報部
『人口動態統計からみた阪神・淡路大震災による死亡の状況』(1995.12)より作成

阪神・淡路大震災の死亡原因

皆さんの生命・財産を守るためには、 住宅・建築物の耐震化が極めて重要です。

住まいの耐震性を確保しましょう

住まいの耐震性は大丈夫？

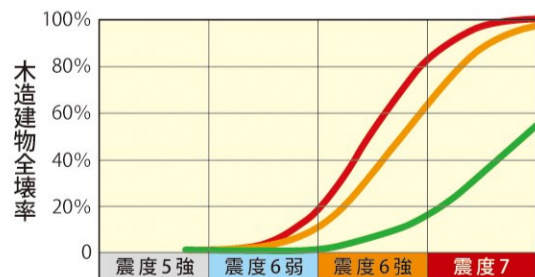
住宅の耐震性を把握するために、耐震診断を行いましょう。耐震診断は、手軽にできる簡易診断から専門家に依頼して実施する精密診断などがあります。
※建物の耐震性は、新耐震設計基準(昭和56年施行)によって大きく変わりました。

建物の耐震性を確保するには

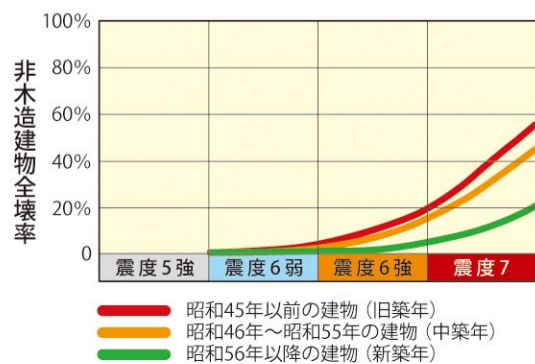
市では、昭和56年5月以前に着工された木造住宅を対象として、無料の簡易耐震診断や耐震改修への補助等の耐震化支援事業を実施しています。詳しい内容等につきましては、建設課までお問い合わせください。(TEL) 055-278-1668

耐震化工事でこんなに違う

旧築年・中築年の建物が耐震化されると、新築年と同等の耐震性をもつようになり、大きな揺れでも壊れにくくなります。



耐震化工事済みの建物も同様に、強い揺れでも壊れにくくなります。

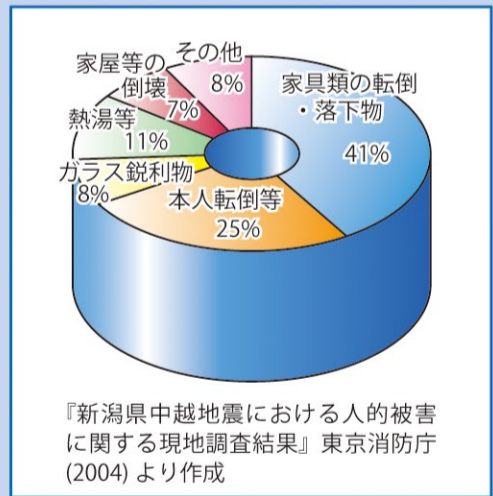


家具や家電製品の地震対策も忘れずに

住宅の倒壊を免れても、テレビ、電子レンジなどが飛び、ガラスの破片は一瞬にして凶器となり大けがの原因となります。
新潟県中越地震によるケガの40%以上が家具の転倒・落下とされています。また、ケガをすることでその後の避難行動に大きな支障が生じます。



家具の転倒
(阪神・淡路大震災写真より)



『新潟県中越地震における人的被害に関する現地調査結果』東京消防庁(2004)より作成

新潟県中越地震によるケガの原因

家具の配置や転倒防止のチェックポイント

ご自宅の中を確認してみましょう。

- ① 寝室・避難経路となる場所に大きな家具・家電を置かないようにしましょう。
- ② 重い物は下へ収納し、軽い物を上部に置くようにしましょう。
- ③ 大型の家具・家電は、転倒防止金具で固定しましょう。
- ④ 棚は、飛び出し防止に扉ストッパーを取り付けましょう。
- ⑤ 整理・整頓し、ガラスには飛散防止フィルムを貼りましょう。

